

7章 基礎統計からみた長崎における高齢福祉環境

谷村 賢治

1節 老いをどうみるか：長崎県の高齢化へのマクロ的接近

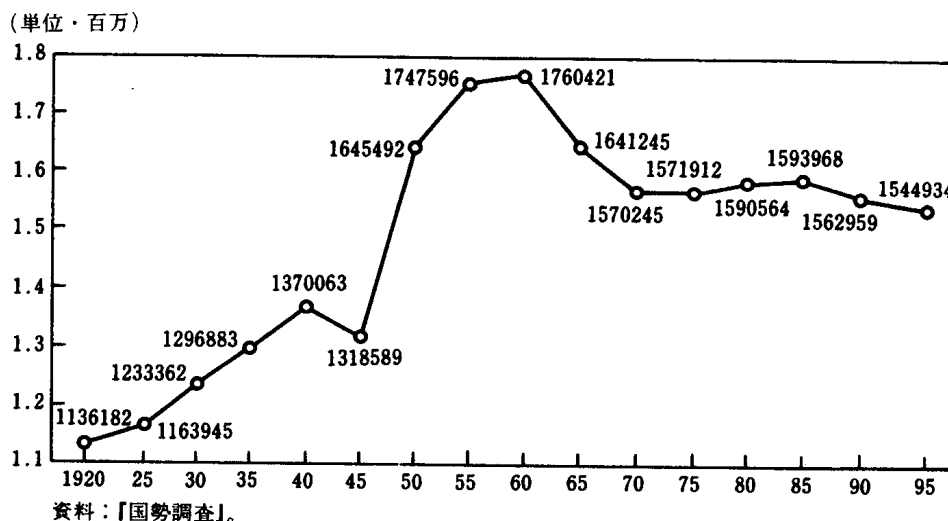
本稿は長崎県を観察対象にして、その高齢化の有り様を『国勢調査』や『国民生活基礎調査』などの基礎統計に拠って探った一つのスケッチである。すなわち「老いをどのように考え、そしていかに生きるか」という課題に対する第一次的接近として、まずは高齢福祉環境の方から観察しようとするもので、生活主体からの接近は、以下の諸稿に回すことにする。

なお本稿は、齋藤寛、高橋達也、横尾美智代（医学部）、早島理（教育学部）の諸氏と現在進めている高齢社会に対する学際的な共同研究の一所産である。今回のわれわれの話の流れからすると、「露払い」的な位置づけとなるので第一報となったことを、予め申し添えておく。

(1) 総人口ならびに年齢3区分別人口の推移

長崎県の総人口の推移をみると（図1）、

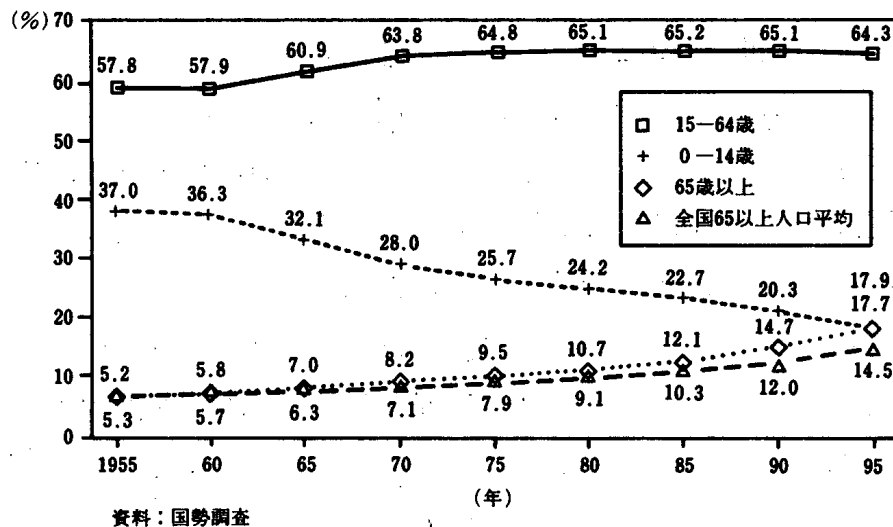
図1 長崎県の総人口の推移



- ① 昭和35年、1,760,421人を記録し、ピークに達した。
- ② その後、高度経済成長期の10年間は大都市への人口の転出（社会減）により減少し、以降、昭和60年にかけてやや回復（増加）しているものの、
- ③ ここ10年間は若干、下降ぎみで推移し、平成7（1995）年現在145万人前後にある。

図2は年齢3区分別人口の動きを表したものである。それぞれの年齢階級人口を、昭和30～平成7年の同期間で比較すると、

図2 年齢3区分別人口の推移



- ① 昭和35年以降、それぞれの年齢階級に目立った動きがでてきた。
- ② 高齢人口は同期に6%弱から18%弱にまで増えている。とりわけ平成2年から7年にかけては3ポイントも急伸。ちなみに全国と比較してみると、長崎県は現在、全国水準を3ポイント以上も上回っている。
- ③ 生産年齢人口は58%前後から一時65%台に載せたが、平成7年度は64.3%と、いくぶん減少している。
- ④ 対照的に、幼少人口は減り続け、30%台から1970年代には20%台にまで減少し、ついに平成7年度には17.9%を記録している。少子化が大きく効いているようだ。

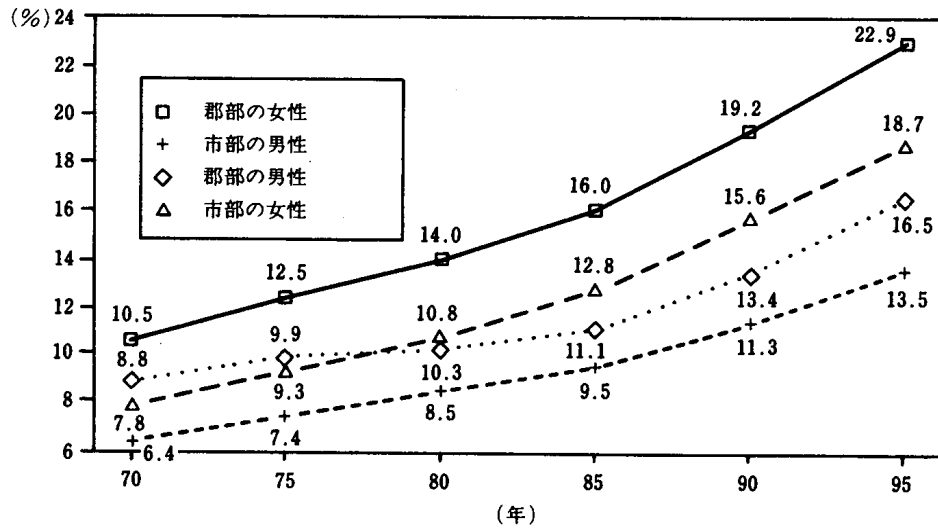
(2) 高齢人口の基本構造

もう一步、高齢人口に立ち入って観察してみよう。

① 市部・郡部別および男女別高齢人口

市部・郡部別および男女別に、65歳以上人口の対総人口比の推移を表したものが図3である。この図から、

図3 市郡・男女別高齢者比率



- ① 郡部の女性がつねにトップで、平成7年は22.9%、これは郡部の女性のほぼ4あるいは5人に1人が高齢者ということになる。また平成2年から7年にかけて3.7ポイントも上昇しており、伸びも最も大きい。
- ② 逆に、同上の伸び、レベルともに最も低いのが市部の男性。平成7年の数値は13.8%で、郡部の女性にくらべると10ポイント近くも低い。
- ③ 両者の中間に位置しているのが市部の女性と郡部の男性。昭和50～55年にかけて市部の女性が郡部の男性を上回り、その結果、総じて男女別で高齢化率を見ると女性の方が男性よりも高いことがわかる。

② 配偶関係の様子

配偶関係も知りたいところである。表1は配偶関係別の割合を1985（昭和60）年から1995（平成7）年まで5年ごとの数値で市郡ならびに男女別に比較したものである。これをみると、

- ① まず未婚率については、経年的に高くなっている。また横断的には若い程高い。さらに男性と女性をくらべると、女性が高い。
- ② 次に有配偶率は、エイジングとともに数値は減少しており、このことは市部・郡部の男女に共通してみられる。また1985年から1995年までの10年間における男女の伸びを比べると、女性の方が伸びが大きい（2.4<6.8）。

また水準には大きな差がみられ、とりわけ後期高齢の場合、男性が76%前後であるのに対して女性は20%前後にしかならない。つまり、男性は75歳以上でも4人に3人が配偶者を有しているのに対して女性は、5人に1人しか配偶者がいないのである。

表1 65歳以上の有配偶関係別割合

	未婚			有配偶			死別			離別		
	1985	1990	1995	1985	1990	1995	1985	1990	1995	1985	1990	1995
全県男												
65歳以上	1.1	1.2	1.5	82.0	83.9	84.4	15.3	13.3	12.2	1.5	1.6	1.7
65—69歳	1.3	1.5	1.9	90.4	90.6	89.7	6.4	6.1	5.9	1.7	1.8	2.2
70—74歳	1.1	1.2	1.5	86.6	87.9	87.5	10.8	9.3	9.3	1.5	1.6	1.7
75歳以上	0.9	1.0	1.0	70.6	74.3	76.0	27.4	23.4	21.6	1.3	1.3	1.2
全県女												
65歳以上	2.0	2.7	3.2	33.8	37.9	40.6	61.5	56.5	52.8	2.5	2.9	3.2
65—69歳	2.7	3.7	4.2	51.7	59.0	62.9	42.1	33.5	28.6	3.4	3.7	4.1
70—74歳	2.1	2.8	3.7	37.8	42.3	48.5	57.4	51.7	44.2	2.6	3.1	3.5
75歳以上	1.5	1.8	2.3	17.1	18.9	20.0	79.5	77.1	75.2	1.7	2.1	2.3
市部男												
65歳以上	1.0	1.2	1.6	82.8	84.5	84.5	14.4	12.5	11.7	1.7	1.8	2.0
65—69歳	1.2	1.5	2.2	90.2	90.6	89.3	6.5	5.9	5.6	2.0	2.0	2.6
70—74歳	1.0	1.1	1.5	86.7	87.9	87.6	10.5	9.2	8.9	1.8	1.9	1.9
75歳以上	0.7	0.9	1.0	72.1	75.8	76.8	25.7	21.9	20.8	1.4	1.4	1.4
市部女												
65歳以上	2.1	2.8	3.5	33.5	37.6	40.0	61.2	56.1	52.4	3.0	3.5	3.8
65—69歳	2.6	4.1	4.8	51.0	57.7	61.3	42.2	33.7	28.6	4.0	4.6	5.0
70—74歳	2.1	2.7	4.0	37.3	41.6	47.2	57.4	51.9	44.4	3.1	3.8	4.2
75歳以上	1.6	1.9	2.2	16.4	18.7	19.8	79.8	77.0	75.1	2.1	2.4	2.7
郡部男												
65歳以上	1.2	1.3	1.4	81.0	83.0	84.2	10.4	14.4	13.0	1.2	1.3	1.4
65—69歳	1.4	1.5	1.6	91.0	90.5	90.3	6.3	6.5	6.3	1.4	1.4	1.8
70—74歳	1.2	1.2	1.5	86.4	87.9	87.4	11.2	9.6	9.8	1.2	1.3	1.3
75歳以上	1.0	1.1	1.1	68.5	72.3	75.0	29.3	25.4	22.9	2.6	1.2	1.0
郡部女												
65歳以上	2.0	2.6	2.9	34.1	38.3	41.5	61.9	57.0	53.3	1.9	2.1	2.2
65—69歳	2.8	3.3	3.5	52.5	61.0	65.2	42.0	33.3	28.6	2.6	2.5	2.6
70—74歳	2.1	2.9	3.1	38.5	43.3	50.3	57.5	51.5	44.0	1.8	2.7	2.5
75歳以上	1.3	1.9	2.4	18.1	19.1	20.2	79.2	77.3	75.4	1.4	1.7	1.8

資料：『国勢調査』

- ③ この理由は死別率の数字が示唆的で、これは男女の平均寿命の差に起因するものであろう。男性の前期高齢者は10%に足らず、後期高齢のそれでも20%強なのに対して、女性は後期高齢では75%前後、すなわち4人に3人は夫に先に旅立たれている。
- ④ 離別については⁽¹⁾、エイジングにつれてその割合は減少していること、また市部の方が郡部よりもその数値が高く、ことに前期高齢の市部の女性のレベルは5.0%とある。近年高齢者の離婚が増えているとはいえ、目につく高さではある。

(3) 高齢者のいる世帯構造

① 高齢者世帯の家族類型別割合：誰と暮らしているのだろうか

これまでみてきた高齢人口の基本構造をふまえて、高齢者のいる世帯の状況をみていくことにする。

表2は65歳以上の親族のいる世帯の家族類型別の構成比とそれが一般世帯に占める割合を示したものである。これをみると、長崎県における65歳以上の親族のいる高齢者世帯数は、平成7（1995）年で188,187世帯で、これは一般世帯の35.6%を占め、3世帯に1世帯強が高齢者のいる世帯となっている。

次に、高齢者が誰と暮らしているのかを、同じく表2から読み取っていくと、

表2 高齢世帯の構成比とその対一般世帯比率（単位：%）

世帯の種類、世帯の家族類型	高齢世帯の構成比	対一般世帯比
一般世帯（実数）	(188,187)	(528,156)
	100.0	35.6
A 親族世帯	78.5	36.6
I 核家族世帯	42.0	24.8
(1) 夫婦のみ	25.8	46.4
(2) 夫婦と子ども	8.4	9.3
(3) 男親と子ども	1.0	35.1
(4) 女親と子ども	6.8	34.3
II その他の親族世帯	36.5	80.9
(5) 夫婦と両親	0.9	74.0
(6) 夫婦と片親	4.3	95.0
(7) 夫婦、子どもと両親	8.2	79.2
(8) 夫婦、子どもと片親	13.4	88.7
(9) 夫婦と他の親族	0.8	71.7
(10) 夫婦、子どもと他の親族	1.7	61.1
(11) 夫婦、親と他の親族	0.5	75.3
(12) 夫婦、子ども親と他の親族	3.0	79.3
(14) 他に分類されない親族世帯	3.7	66.2
B 非親族世帯	0.1	18.0
C 単独世帯	21.4	32.5

注：(14)には「(13)兄弟姉妹から成る世帯」を含む。

資料：『国勢調査』

- ① 家族類型別に上位をみると、1位は(1)「夫婦のみ」の25.8%で、4世帯に1世帯は二人だけで暮らしていることが知れる。
- ② 2位は「単独世帯」の21.4%であるから、高齢者のいる世帯のうちの半数近く(47.2%)は夫妻が向かい合って、またはどちらかがいなくて一人で暮らしていることがわかる。
- ③ 3位は(8)「夫婦、子どもと片親」の13.4%である⁽²⁾。この家族類型は一般世帯もあまり伸びをみせていないために、表2の対一般世帯の割合をみると他の家族類型にくらべて88.7%と高い値をみせている。
- ④ 80.9%と、「Ⅱその他の親族世帯」の対一般世帯比率が高いために、高齢者は夫婦以外の親族と一緒に生活していると思われがちで、今なおそのようなイメージが強いが、それは高齢世帯の構成比の数字からして、虚像であることを理解しておかなくてはならない。

② 高齢者世帯ならびに高齢単身世帯の状況

平成7年度『国勢調査』をもとに高齢者世帯および高齢単身世帯率の推移を表した図4をみると、高齢者世帯率は昭和60年から平成2年にかけて30%を超えており、現在(平成7年)にいたる過去10年間で大幅な伸びがみられる。高齢単身世帯率も、そのような大幅な伸びはみられないものの着実に伸びていることが観察される。

図4 高齢者世帯及び高齢単身世帯率

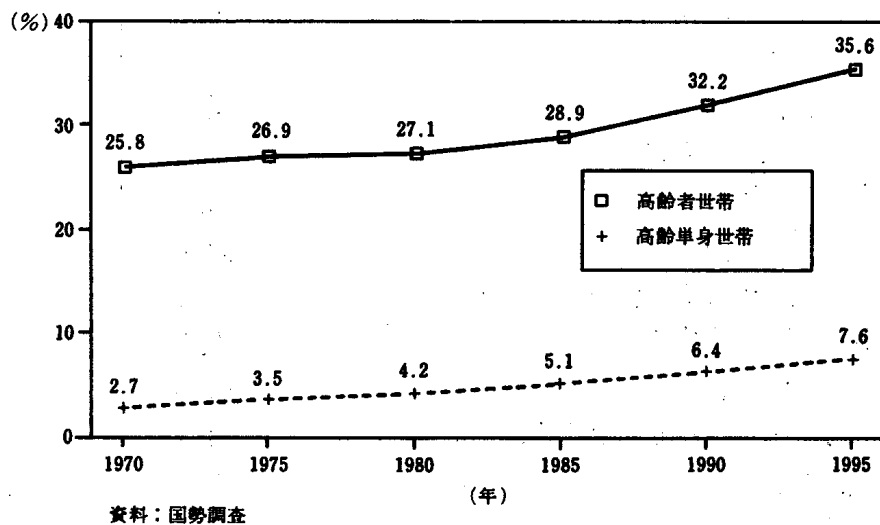


表3 要介護者（世帯）と寝たきり者（世帯）の対高齢人口（世帯）比

	全 国	長 崎
①65歳以上親族のいる一般世帯（千世帯）	12780	188
②要介護者のいる世帯（千世帯）	1090	14
③寝たきり者のいる世帯（千世帯）	329	4
④(=②/①)要介護者のいる世帯の割合(%)	8.53	7.45
⑤(=③/①)寝たきり者のいる世帯の割合(%)	2.57	2.13
⑥65歳以上人口（千人）	18261	273
⑦要介護者数（千人）	1112	15
⑧寝たきり者数（千人）	331	4
⑨(=⑦/⑥)要介護者の対高齢人口比(%)	6.09	5.49
⑩(=⑧/⑥)寝たきり者の対高齢人口比(%)	1.81	1.47

③ 要介護者（世帯）と寝たきり者（世帯）の対高齢人口（世帯）比率

それでは以上でみてきた高齢人口あるいは高齢世帯に占める要介護者（世帯）や寝たきり者（世帯）の割合はいかなるものか、押さえておこう。

それを示す表3から、要介護者（世帯）や寝たきり者（世帯）の対高齢人口（世帯）比率はいずれも、長崎県の場合は全国レベルより低いことが知れる。

2節 老いを誰と過ごすのか

(1) 高齢者の家族形態と子との同・別居状況

それでは高齢者の家族形態と子との同別居状況を全国的にみた場合、どのような水準にあるのだろうか。平成7年「国民生活基礎調査」第3巻をもとに作成した表4と表5をみていくことにしよう。

- ① まず表4からみていくと、長崎県は全国にくらべて「高齢単独世帯」が4.4ポイント、「高齢夫婦のみの世帯」が2.2ポイントも高い。しかし逆に、「子と同居」では全国水準よりも6.3ポイントも低い値を示している。
- ② そこで表5の、高齢者と子との同別居状況をみてみると、高齢者と同居こそしていないが、何かあったときに見守ってやれる近さの、「同一家屋・同一敷地」は3.1%で、このレベルは全国よりも0.4ポイント低い。いわゆる「スープの冷めない地域」にあたる、「近隣地域」は7.5%で、全国よりも2.2ポイントも高くなっている。このことは、本県の高齢者にとっては心強い点といえるだろう。

- ③ またそれよりも離れた「同一市区町村」の値をみると12.7%で、全国よりも4.4ポイントも高い数値を示している。また「その他の地域」でも全国よりも1.8ポイント高くなっている。
- ④ 以上の観察結果は、全国水準を上回って長崎県では家族介護が難しい現状を示している。すなわち、現在、そしてこれからの高齢者福祉は地域社会全体で支えていかなくてはとうてい成り立っていかないことも同時に表している⁽³⁾。

表 4 65歳以上の者の家族形態：平成7年（単位：％）

	長崎県	全 国
総 数	100.0	100.0
単 独 世 帯	17.0	12.6
夫婦のみの世帯	31.6	29.4
子 と 同 居	48.0	54.3
子ども夫婦と同居	29.7	35.5
配偶者のいない子と同居	18.3	18.9
その他の親族と同居	3.4	3.5
非親族と同居	0.0	0.2

資料：「国民生活基礎調査」第3巻、P. 312

表 5 65歳以上の者の子との同別居状況：平成7年（単位：％）

	長崎県	全 国
総 数	100.0	100.0
子 ども あり		
総 数	88.2	86.6
同 居	48.0	54.3
同一家屋又は同一敷地	3.1	3.5
近 隣 地 域	8.8	6.6
同一市区町村	12.7	8.3
その他の地域	15.6	13.8
子 ども な し	9.0	7.2
子ども有無不詳	2.8	6.2

資料：「国民生活基礎調査」第3巻、P. 313

7章 基礎統計からみた長崎における高齢福祉環境

② 高齢者のいる世帯の住居状況

視点を変えて高齢者がどのような住居で暮らしているのか、その様子を表6からみてみよう。

表6 持ち家率（単位：％）

	(A) 長崎県	(B) 全 国	(C)=(A)-(B)
一般世帯の持ち家率	63.4	58.4	5.0
高齢者のいる世帯の持ち家率	86.9	84.7	2.2
高齢単身世帯の持ち家率	72.6	63.3	9.3

資料：『国勢調査』平成7年

長崎県では、「一般世帯」の持ち家率が63.4%で、「高齢者のいる世帯」が86.9%、「高齢単身世帯」は72.6%となっており、これを全国と比較してみると、いずれも県の数値が全国レベルを上回っており、なかでも高齢単身世帯の持ち家率は10ポイント近くも高い。注目すべき点といえよう。

3節 老いをどう支えるか：市町村別の高齢福祉の現状

以上でみてきたような「老い」の現状に対して高齢福祉の行政主体である各市町村ではいかなる対応を採っているのか。市町村別の高齢福祉の現状をみるための基礎データとでもいえるべきものが表7で、これは平成8年度版『老人保健福祉サービス利用状況地図』などをもとに作成したものである⁽⁴⁾。観察に入る前に表中のデータについて説明しておく。

- 1 総人口：各市町村の平成7年10月1日現在における人口。
- 2 高齢化率：総人口に占める65歳以上人口の平成7年10月1日現在での割合。
- 3 75歳以上人口：各市町村の平成7年10月1日現在における人口。
- 4 一人暮らし老人数（在宅要援護老人）：平成7年10月1日現在における人口。
- 5 ホームヘルパー：平成7年度に行われたものを長崎県老人福祉課でまとめた利用延人員をもとに65歳以上人口100人当たりの年間利用日数を求めたもので、その計算方法は、（市町村利用延人員／市町村65歳以上人口）×100。

- 6 ショートステイ：計算方法等はホームヘルパーに同じ。
- 7 デイサービス：計算方法等はホームヘルパーに同じ。
- 8 特別養護老人ホーム：老人福祉法に基づく特別養護老人ホームの施設数
- 9 老人保健施設：老人福祉法に基づく老人保健施設の施設数

それではさっそく2の高齢化率からみていこう。30%を超えている自治体が6町もある：崎戸町、高島町、伊王島町、玉之浦町、大島村そして宇久町。いずれも島しょ部で、つづくのは20%台後半にある小値賀（おちか）町、野母崎町そして岐宿町だが、野母崎半島の端に位置する野母崎を除き、これまた島しょ部に属す。

一方、逆に10%台前半の低水準にあるのが、長崎市に南接し、そのベッタウンと化している時津町と長与町、そして多良見町である。ついで大村市、諫早市と市部が来ている。

3の75歳以上人口に移る。上記の各高齢化指標間の相関行列を示した表8をみると、総人口と75歳以上人口の間には0.99という、プラスのきわめて強い相関がみられる。

4の一人暮らし老人数（在宅要援護老人）は、表7から、総人口（相関係数0.96）や75歳以上人口（同0.98）ときわめて強い相関があることがわかる。また特別養護老人ホーム（同0.92）や老人保健施設（同0.92）とも強い相関を有している。

他方、在宅3本柱との相関はないといってよいほど係数が低い。在宅要援護老人との強い相関を予想していたが、外れた。

5のホームヘルパーに移ろう。表8の相関行列表から、高齢化率（相関係数0.46）やデイサービス（同0.45）とは弱い正の相関がある。その他の諸指標との間には相関はみられない。表7に眼をやって市町村別に見てみると、崎戸町では1,000日を超えており、吉井町でも500日を超す。その一方で、佐世保市の20日台が眼を引く。総じて各市町村間に相当のばらつきがみられる。

表6に戻る。6のショートステイと各指標間との間には相関はまったくみうけられない。表7に眼をやって市町村別に見てみよう。300日に近い宇久町、200日を超す外海町。巖原町、玉之浦町、奈留町の3町も100日台。逆に10日未満の市や町を見渡すと、全てで26にも上る。なかでも大島村は実施ゼロ。概してショートステイの場合も、各市町村間のばらつきは大きかった。

7章 基礎統計からみた長崎における高齢福祉環境

表8 相関行列表

	1 総人口	2 高齢 比率	3 75歳以 上人口	4 一人暮 らし数	5 ホーム ヘルパー	6 ショート ステイ	7 デイサ ービス	8 特養老 ホーム	9 老人保 健施設
1 総人口	1.00	(-0.28) -0.28	(0.99) <u>0.99</u>	(0.97) <u>0.96</u>	(-0.24) -0.17	(-0.08) -0.09	(-0.14) -0.21	(0.90) <u>0.93</u>	(0.79) <u>0.94</u>
2 高齢化率		1.00	(-0.26) -0.26	(-0.22) -0.22	(0.42) 0.46	(0.27) 0.22	(0.22) 0.41	(-0.28) -0.31	(-0.38) -0.33
3 75歳以上人口			1.00	(0.98) <u>0.98</u>	(-0.24) -0.17	(-0.07) -0.09	(-0.15) -0.22	(0.91) <u>0.94</u>	(0.77) <u>0.94</u>
4 一人暮らし老人数				1.00	(-0.22) -0.15	(-0.02) -0.04	(-0.13) -0.20	(0.88) <u>-0.92</u>	(0.70) <u>-0.92</u>
5 ホームヘルパー					1.00	(0.26) 0.23	(0.34) 0.45	(-0.31) -0.23	(-0.23) -0.19
6 ショートステイ						1.00	(0.10) 0.29	(0.03) -0.01	(-0.03) -0.09
7 デイサービス							1.00	(-0.14) -0.20	(-0.10) -0.22
8 特別養護老人ホーム								1.00	(-0.72) <u>-0.88</u>

注1. アンダーラインは強い正の関数を表す。

2. () は平成5年度の高齢者福祉基礎データをもとに算出した相関係数を表す。

7のデイサービスも、5のホームヘルパーや2の高齢化率との間にごく弱い相関が見られるほかは、いずれの指標とも相関を有しない。

表7に眼をやると、崎戸、伊王島の両町では1,000日の大台を超えている。他方、ゼロ日の町が高島町、森山町、南有家町、美津島町そして上対馬町の合計5町にのぼる。ということからも、デイサービスもその利用に大きな差異がみられた。

8の特別養護老人ホームならびに9の老人保健施設の場合は、相関行列表からみると、性格が似ている。ともに総人口や75歳以上人口そして一人暮らし老人数との間に強い相関があり（ただし一人暮らし老人数と特養ホームはマイナスの、また老人保健施設とはマイナスというところが興味深い）、一人暮らし老人の多い、人口集中地域に施設が設けられているが、しだいにその裾野も広がりはじめている模様だ。またショートステイおよびデイサービスやホームヘルパーとの相関はみられないといってよい。

さて、こう見てくると、特別養護老人ホームならびに老人保健施設の場合

は、その供給レベルはいまのところ低いかもしれないが、それでもしだいにニーズに沿う形で設けられていることがわかった。しかしながら在宅3本柱の各サービスは、75歳以上人口をはじめとして他の諸指標との相関がなく、また各サービスの利用には大きな地域差があり、その全体的なレベルの向上ならびに各在宅介護サービス間の適切な組み合わせが、これからの課題となろう。

4節 老いをいかに生きるか

さきにわれわれは長崎県の高齢福祉の現状を観察した際（谷村1995）、とうてい家族内での完結した介護・看護は無理なこと、したがって家族外からの支援を頼まざるを得ないことを指摘した。この度の観察結果は、このような理解をいっそう強くするものであった。

家族を中心に親族、地縁集団の順に広がる地域的、重層的な支援システムによって支えられていたこれまでと違い、今日では家族さえもその役割を果たせなくなっている現状に直面している高齢者は、自らの若かりし日、祖父母や親たちを看取ったという経験を胸に秘めながらいま、なにを考え、生きていこうとしているのか、彼女（彼）らの声に耳を傾けることが、次の課題となるはずである。その答えは、以下の三つの章が答えを出してくれているはずである。

注

- (1) この場合の男女間にみられる数字の差は、5年という調査間隔の長さがとりわけ男性の場合の把握率を下げたものと考えられる。したがって女性の数字の方がより実態に近いはずである。
- (2) 『国勢調査』によれば、昭和60年は19.9%で2位だったのが平成2年には16.4%と3.5%も減少して3位へ下がり、平成7年には13.4%とさらに3%減少している。要するに、この10年間で6.5%も減少している。

また、この項目以外の「Ⅱその他の親族世帯」の諸項目もこの10年間に0.1ポイントから最大2.6ポイントまで減少しており、その結果、「Ⅱその他の親族世帯」全体の構成比は、過半数に近かった

7章 基礎統計からみた長崎における高齢福祉環境

47.8%から11.1ポイントも減少し、4割を割って36.5%までおちこんでおり、この減少ぶりは激しいものがある。

- (3) たとえ側に介護をしてくれる身寄りがいても、「老老介護」というマンパワーの現状などを想うとき、まして表4、5のような家族状況では介護、看護は外部に頼らざるを得ない。
- (4) したがって本稿の刊行される平成12年3月現在の数字ではなく、この間に高齢福祉環境は相当進展している可能性は高いが、致し方ない。

引用文献

谷村賢治 (1995) 『現代家族と生活経営』 ミネルヴァ書房、第6章

表7 市町村別高齢福祉基礎調査データ

区分	総人口	高齢化率	75以上人口	ひとり暮らし高齢者	ホームヘルパー	ショートステイ	デイサービス	特別養護老人ホーム	老人保健施設
長崎県	1,550,220	18.0	108,536	32,485	109.7	23.9	227.0	80	34
長崎市	433,268	16.1	26,081	6,067	89.0	17.9	130.7	10	8
佐世保市	245,565	17.7	16,555	5,396	21.2	13.6	64.0	7	5
原市	41,022	20.0	3,414	700	67.9	8.2	176.4	3	1
諫早市	92,255	14.5	5,582	1,164	60.6	7.2	310.9	2	3
大村市	79,696	14.5	4,471	1,331	111.7	15.8	85.4	2	2
福江市	29,100	19.9	2,364	1,307	173.6	52.5	424.9	2	2
平戸市	25,857	22.2	2,244	874	113.6	21.4	188.4	1	1
松浦市	23,849	20.1	1,918	566	67.7	22.9	368.3	2	—
香焼町	4,880	19.6	373	177	189.4	13.2	18.8	—	—
伊王島町	1,190	33.3	161	128	254.0	3.5	1146.5	—	—
高野町	1,065	36.2	140	96	397.9	7.0	—	—	—
母島町	8,413	27.4	987	350	169.1	6.9	238.9	1	—
三和町	12,937	15.2	797	232	92.0	5.0	178.9	1	1
多良見町	17,339	13.8	1,095	167	89.0	2.5	343.4	1	1
長時津町	36,169	12.2	1,754	274	116.7	30.0	206.0	2	1
琴西町	27,267	10.8	1,177	208	243.7	27.0	440.3	1	1
西彼海島町	12,327	16.9	817	203	217.9	7.8	180.8	1	—
大崎町	9,891	20.3	934	158	78.0	7.4	322.7	—	1
瀬戸町	9,516	23.4	823	192	128.0	25.6	297.9	1	—
大外町	6,005	23.9	553	292	260.1	53.3	305.0	1	—
瀬海井町	2,647	37.2	449	277	1025.2	87.4	1381.4	—	—
東川波佐山町	8,717	24.6	743	391	160.8	59.5	471.6	1	—
小長井町	8,080	21.0	813	320	257.2	213.1	435.8	1	—
瑞穂町	10,357	20.8	955	185	58.0	21.4	515.4	1	1
吾愛町	15,362	17.6	1,072	307	62.4	10.7	233.0	1	1
千々浜町	15,854	16.9	1,027	167	46.2	9.0	171.1	1	—
小南串町	6,290	20.2	622	97	52.6	19.9	—	1	—
	8,451	20.1	612	162	91.8	1.5	232.5	—	—
	11,334	20.4	985	173	221.6	6.7	411.4	1	—
	6,945	19.0	477	114	224.6	7.6	449.1	1	—
	12,352	20.3	1,005	183	37.7	35.4	216.0	1	—
	12,126	21.5	1,028	250	177.7	6.6	206.4	—	—
	6,343	20.2	608	112	174.5	15.8	439.1	1	—
	8,004	20.9	634	142	125.5	3.6	259.1	—	1
	4,539	18.5	367	120	179.0	6.8	251.9	—	—
	6,149	21.3	441	175	341.8	35.8	399.6	—	—
	12,457	20.6	1,001	299	63.4	19.1	264.7	1	—
	5,227	21.3	414	109	110.2	8.8	345.3	—	—

7章 基礎統計からみた長崎における高齢福祉環境

加口	8,988	21.9	794	261	131.2	14.3	75.2	1
津之	7,244	22.9	742	209	323.4	19.0	256.1	1
有馬	7,054	23.2	723	191	131.5	14.4	—	—
有家	4,736	22.7	393	89	140.5	8.8	392.2	—
津島	9,529	22.3	738	173	77.2	4.1	241.8	—
江島	9,906	22.0	859	216	135.5	12.1	251.7	1
深江	5,449	22.5	492	108	134.8	55.0	821.5	1
大生	8,174	20.9	726	226	35.8	38.2	445.6	1
小字	1,955	30.7	219	117	33.5	—	330.0	—
田福	8,691	19.6	652	107	95.8	95.8	402.2	1
江島	4,245	29.1	455	216	129.0	49.9	257.2	1
月賀	4,398	30.3	525	364	301.1	279.7	302.8	1
佐々	8,077	21.0	741	213	108.7	27.5	229.6	1
平島	3,718	25.1	391	30	71.7	38.5	562.3	1
島迎	3,117	25.6	293	29	65.2	1.9	445.6	—
江島	6,663	21.6	617	276	55.1	4.6	264.3	1
鹿々	5,965	20.6	486	215	173.2	1.5	357.0	—
佐々	7,540	17.2	477	169	267.0	22.5	537.7	1
小佐	12,844	16.8	814	257	207.7	31.1	272.2	—
古井	6,269	20.2	507	218	603.2	21.7	468.0	1
世原	4,441	24.7	496	150	261.3	30.3	525.0	1
江浦	7,187	25.5	764	527	170.1	18.8	435.5	1
知井	2,449	31.7	315	248	397.7	155.9	797.9	—
之井	4,402	23.7	396	292	348.8	57.0	905.4	1
宿留	4,631	26.6	496	213	202.4	40.9	380.6	1
松島	4,584	23.1	362	224	73.3	146.0	952.9	1
若松	4,893	23.4	427	255	145.6	31.9	389.4	1
上魚	7,964	19.2	567	235	156.3	75.3	451.3	1
新有	5,327	22.6	438	264	77.3	34.1	695.3	1
茶郷	7,851	20.2	537	351	127.1	35.5	353.1	1
川屋	3,905	24.5	346	236	291.3	29.8	366.9	—
本浦	13,110	21.7	1,145	484	209.5	5.5	214.5	1
勝本	7,497	26.0	823	235	99.6	12.1	286.9	1
芦田	9,898	23.6	852	255	177.6	7.9	240.9	—
石邊	5,115	20.1	383	102	239.1	6.9	485.9	—
磯原	16,084	16.4	973	543	91.1	168.4	362.8	1
津島	8,807	18.7	648	141	65.1	31.1	—	1
美玉	5,061	19.6	345	126	145.5	37.5	567.0	1
豊峰	3,181	22.3	248	80	115.2	94.8	719.4	1
上上	4,807	22.6	400	116	227.8	21.9	551	—
対馬	5,619	21.1	418	159	279.3	32.0	—	1

資料：平成8年度版『老人保健福祉サービス利用状況地図』